2027 年度



東邦大学医療センター大森病院
麻酔科専門研修プログラム

東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門研修プログラム

１．専門医制度の理念と専門医の使命

①麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献します。

②麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学です。麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストです。同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担います。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

①利便性に優れた周辺環境とアクセス

当院は東京都大田区に位置し、羽田空港や新幹線発着駅である品川駅へのアクセスが良好です。また都内主要エリアへの交通の便も良く、日々の生活や研修・学会への参加において利便性の高い環境にあります。

②自施設完結型研修と、さらなる高みを目指す連携施設ネットワーク

特定機能病院として豊富な症例数を誇り、経験豊かな指導医が多数在籍しています。自施設での確かな土台：心臓、胸部外科、小児、産科、脳外科など、専門医取得に必要な全分野を自施設のみで十分に経験可能です。

③高度症例へのステップアップ

さらに、心臓血管外科、呼吸器外科、小児麻酔、がん専門施設など、国内屈指の連携施設ネットワークを活かした研修も可能です。各専門領域において、より高度かつ特殊な症例を経験できる体制を整えています。

④周術期をトータルにマネジメントする

術前外来での評価から、多彩な手術麻酔、そして麻酔科が主導して運営する surgical（術後）ICU での管理までを一貫して学びます。 外科系各科と連携したシームレスな管理を通じて、麻酔科医としての確かな全身管理能力を養います。

⑤多彩なキャリアと専門資格の取得を支援

専門医取得はもちろん、その先のステップアップを希望される方には、個々の志向や将来のビジョンに合わせた柔軟なサポート体制を用意しています。

- ●確実な資格取得へのバックアップ: 専門医取得に必須となる学会発表や論文執筆についても、適切な演題の選定から発表準備まで指導医が丁寧にサポートします。また、JB-POT（経食道心エコー）や J-RACE（区域麻酔）の受験に際しても、合格まで導く指導体制が確立されています。
- ●エキスパートによるサブスペシャリティー指導: 心臓血管麻酔、区域麻酔、ペインクリニック、集中治療など、各領域の専門資格を有する医師が多数在籍しています。それぞれの専門領域への関心に合わせ、実勢に基づいた質の高いバックアップが可能です。

⑥多彩な臨床経験と専門手技への対応

手術室のみならず、様々な臨床現場で多岐にわたる高度な症例や手技を経験することが可能です。

- ●高度な周術期管理: ロボット支援下手術、小開胸低侵襲心臓手術（MICS)、覚醒下脳外科手術、TAVI や Mitra Clip といった経食道心エコーを駆使する心臓カテーテル治療の管理も豊富です。
- ●産科・ペイン・区域麻酔: 産科と連携した安全な無痛分娩や、脊髄刺激電極埋込術などの専門的アプローチを日常的に行っています。また、臨床解剖学の知見に基づいた高難度な神経ブロックの手技を間近で学び、経験できる環境を整えています。

3. 専門研修プログラムの運営方針

●1年目前半に多様な手術症例を経験し，基礎力を身につけます。

●すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本としますが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション，心臓血管外科麻酔を学びたい者へのローテーション，集中治療を中心に学びたい者へのローテーションなど，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションを考慮します。

●研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築します。

●研修のうち６ヶ月は，関連研修施設で集中治療領域の研修を行います。

研修実施計画例

	A. 標準（バランス型)	B. 標準＋集中治療型	C. 標準＋ペイン型	D. 標準＋小児・産科麻酔型	E.標準＋研究型	F. 標準＋自由選択型
初年度前期	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院
初年度後期	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択
２年度前期	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択
２年度後期	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択	連携病院自由選択
３年度前期	連携病院自由選択	連携病院集中治療	連携病院ペイン	連携病院小児産科麻酔	東邦大学大森病院	連携病院自由選択
３年度後期	連携病院自由選択	連携病院集中治療	連携病院ペイン	連携病院小児産科麻酔	東邦大学大森病院	連携病院自由選択
４年度前期	東邦大学大森病院	連携病院集中治療	連携病院ペイン	連携病院小児産科麻酔	東邦大学大森病院	連携病院自由選択
４年度後期	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院ペイン	東邦大学大森病院小児産科麻酔	東邦大学大森病院	東邦大学大森病院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	ICU	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	休み
午後	ICU	術前外来	手術室	外勤	手術室	休み	休み
オンコール			○				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

東邦大学医療センター大森病院（以下，東邦大学大森本院）

研修プログラム統括責任者：武田　吉正

専門研修指導医：

武田　吉正	（区域麻酔・集中治療）
石川　慎一	（手術麻酔・ペインクリニック）
花崎　元彦	（手術麻酔・集中治療）
武藤　理香	（小児麻酔）
岩本　津和	（手術麻酔･教育）
尾崎　由佳	（手術麻酔）
岸田　浩一	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
小野寺　勇人	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
土肥　泰明	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
矢野　喜一	（手術麻酔･心臓血管麻酔･集中治療）
村上　徹	（手術麻酔･心臓血管麻酔･集中治療）

専門医：

大越　一毅	（手術麻酔・心臓血管麻酔）
安田　絢子	（手術麻酔・心臓血管麻酔）
遠藤　奈穂	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
島津　恵介	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
中谷　剛仁	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
永野　菜月	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
鈴木　崇文	（手術麻酔･小児麻酔）
秋山　拓也	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
阿瀬　千咲	（手術麻酔）
久保　瑠依志	（手術麻酔）
崔　英姫	（手術麻酔）
藤田　彩恵	（手術麻酔）
丹治　紗百合	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
朴　在元	（手術麻酔･心臓血管麻酔）
中澤　凛	（手術麻酔）

川木　譲　　（手術麻酔）
岩井　愛　　（手術麻酔）
専攻医：吉岡　慶太郎
森　厚槇
麻酔科管理症例数:5931 症例
認定病院番号：71

② **専門研修連携施設**

・東邦大学医療センター大橋病院

研修プログラム統括責任者 ： 小板橋俊哉
専門研修指導医 ：
小板橋　俊哉（麻酔，緩和）
豊田　大介　（麻酔）
牧　裕一　　（麻酔，集中治療）
下井　晶子　（麻酔）
専門医 ：
川原　小百合（麻酔）
阿部　理沙　（麻酔）
坂本　優安　（麻酔）
甲斐　沙織　（麻酔）
麻酔科管理症例数：2579症例
認定病院番号：193

特徴：周術期センターが設置されており，麻酔科医，薬剤師，看護師，歯科衛生士による総合的な評価を行い，術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻酔科発足以来，慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また，集中治療，呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している。

・東邦大学医療センター佐倉病院

研修プログラム統括責任者：北村　享之
専門研修指導医：北村　享之　（臨床麻酔）
甲田　賢一郎（臨床麻酔）

佐藤　可奈子（臨床麻酔，ペインクリニック）
木村　悠香　（臨床麻酔）
村井　利恵　（臨床麻酔）
江畑　美生　（臨床麻酔）

麻酔科管理症例数：3032 症例

認定病院番号：610

特徴：印旛地区における中心医療施設の一つ。地区の中心医療施設の一つで，経験が必要な症例は全て当院で経験が可能である。

・周術期糖代謝管理

近年，周術期の適切な血糖値管理が術後アウトカムに寄与することが示唆されており，当院では手術予後を改善するために周術期の血糖管理の適正化に関する研究を外科系診療科と協力して計画している。

・高度肥満外科手術

高度肥満患者に対する先進医療（腹腔鏡下胃スリーブバイパス術）を行っており，高度肥満患者の全身麻酔管理を経験できる。

・昭和医科大学病院

研修実施責任者：大江　克憲

専門研修指導医：大江　克憲（心臓麻酔，小児心臓麻酔，集中治療）
加藤　里絵（産科麻酔，手術麻酔）
小谷　透（集中治療）
米良　仁志（ペインクリニック）
尾頭　希代子（呼吸管理，心臓麻酔，集中治療）
細川　幸希（産科麻酔，手術麻酔）
小林　玲音（ペインクリニック，手術麻酔）
石田　裕介（心臓麻酔，手術麻酔，集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
原　詠子（ペインクリニック，手術麻酔）
泰地　沙季（手術麻酔）
佐々木　友美（手術麻酔）
五反田　倫子（産科麻酔，手術麻酔）
落合　弦（産科麻酔，手術麻酔）

飯島　香子（産科麻酔，手術麻酔）
髙橋　有里恵（小児心臓麻酔，手術麻酔）
羽二生　毬子（手術麻酔）

麻酔科管理症例数:8025 症例
麻酔科認定病院番号：33
特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術，肝臓手術，呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき，心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック，無痛分娩（産科麻酔），集中治療，緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており，専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

・社会福祉法人恩恵財団済生会横浜市東部病院

研修プログラム統括責任者：佐藤智行
専門研修指導医：
佐藤　智行（麻酔，集中治療）
谷口　英喜（周術期管理，麻酔）
高橋　宏行（集中治療，麻酔）
上田　朝美（麻酔，集中治療）
斎藤　郁恵（麻酔）
秋山　容平（麻酔，心臓麻酔）
冨田　真晴（麻酔）
佐藤　貴紀（麻酔，集中治療）
三浦　梢（麻酔）
鎌田　高彰（麻酔，周術期管理）
玉井　謙次（集中治療，麻酔）
中山　博介（麻酔）
竹田　渓輔（麻酔）
田中　敬大（麻酔，心臓麻酔，区域麻酔）
専門医：
佐藤　雄生（麻酔，区域麻酔）

稲垣　里穂（麻酔）
津田　匠太（麻酔）
松岡　雄治（麻酔）
松尾　津波（麻酔）
宇佐美　清吾（集中治療，麻酔）

認定病院番号　1315

特徴：済生会横浜市東部病院は平成 19 年 3 月に開院し，地域に根ざした横浜市の中核病院として，そして済生会の病院として，救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また，急性期病院であるとともに，ハード救急も担う精神科，重症心身障害児（者）施設も併設されている。また，「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え，研修医，専門医の育成にあたっており，医師，すべての職員が，充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

・国立成育医療研究センター

研修プログラム統括責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：糟谷　周吾（麻酔）
大原　玲子（麻酔，周産期）
馬場　千晶（麻酔）
佐藤　正規（麻酔，周産期）
蜷川　純（麻酔，心臓血管）
山下　陽子（麻酔，周産期）
行正　翔（麻酔）
古田　真知子（麻酔）
浦中　誠（麻酔，心臓血管）
橋谷　舞（麻酔，心臓血管）
伊集院　亜梨紗（麻酔，周産期）
兒玉　洋介（麻酔）
久米　澄子（麻酔，周産期）
岩田　裕貴（麻酔）
岩田　愛理（麻酔，周産期）

麻酔科管理症例数：6541 症例

認定病院番号：87

特徴：

・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で，小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について，指導者の下で経験・習得できる。
・国内最大の小児集中治療施設で，救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる。
・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる。
・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる。
・小児がんセンター，緩和ケア科があり，小児緩和医療を経験できる。
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある。

・国立がん研究センター中央病院

研修プログラム統括責任者：佐藤 哲文（麻酔，集中治療）

専門研修指導医：

佐藤　哲文（麻酔，集中治療）
松三　絢弥（麻酔，集中治療）
小坂　順子（麻酔，集中治療）
川口　洋佑（麻酔，集中治療）
大額　明子（麻酔）
大石　悠理（麻酔，集中治療）
重松　美沙子（麻酔・集中治療）
塩路　直弘（麻酔，集中治療）
佐々木　咲子（麻酔）
榎本　有希（麻酔・集中治療）

専門医：

桑原 由佳（麻酔）
齊藤 裕美（麻酔）
樋口 陽（麻酔）

麻酔科管理症例数：5209症例

認定病院番号：43

特徴：東京都中心部に位置するがん治療・がん研究の拠点病院で，悪性腫瘍手術全般，特に胸部腹部外科手術の麻酔管理を研修することができる。集中治療部の研修も可能である。

・公益財団法人　榊原記念財団　附属　榊原記念病院

研修プログラム統括責任者：清水　淳（麻酔一般，心臓麻酔）

専門研修指導医：

清水　淳　　（麻酔一般，心臓麻酔）
一瀬　麻紀　（麻酔一般，救急医療）
古市　結富子（麻酔一般，心臓麻酔，集中治療）

麻酔科管理症例数：2541症例

認定病院番号：1441

特徴：急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である。 小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理，術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができる。 また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる。 地域医療支援病院である。

・かわぐち心臓呼吸器病院

研修プログラム統括責任者：竹田　晋浩

専門研修指導医：

竹田　晋浩　　（集中治療）
池崎　弘之　　（心臓血管麻酔・集中治療）
本郷　卓　　（集中治療）
小林　克也　　（集中治療）
竹森　健　　（心臓血管麻酔）
上田　桂子　　（心臓血管麻酔・集中治療）
前川　真基　　（心臓血管麻酔・集中治療）

専門医：　吉田　雄基　　（心臓血管麻酔）
北川　陽太　　（心臓血管麻酔）

麻酔科管理症例数：830 症例

症例認定病院番号：1834

特徴：心臓血管手術の術前から術後の ICU 管理を担当し，周術期の全身管理を習得します。従来の一般的な心臓血管手術の麻酔に加え，MICS（低侵襲心臓手術）の手術麻酔やTAVI,Mitra Clip といった心血管カテーテル治療の麻酔も研修できます。経食道心エコーによる術前・術中評価も積極的に行っています。

・亀田総合病院

研修プログラム統括責任者：植田　健一

専門研修指導医：植田　健一（麻酔）
吉沼　裕美（麻酔，ペインクリニック）
室内　健志（麻酔）
中澤　遥（麻酔）
林　淑朗（麻酔，集中治療）
河野　宏之（麻酔）
柘植　雅嗣（麻酔）
竹原　由佳（麻酔）
劉　丹（麻酔）
加納　美咲（麻酔，ペインクリニック）
藤井　真理映（麻酔）
荻野　仁史（麻酔）
藤本　萌子（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科管理症例数：8917 症例

認定病院番号：367

特徴：千葉県南房総地区において中心的な役割を果たす施設。早くから米国式研修医システムを取り入れ，研修医を育てることを得意とする病院施設である。外科においては，心臓手術，呼吸器外科，食道外科をはじめとする高度医療から一般外科まで幅広く手術症例があり，年間 1 万例以上の手術件数を誇る。ペインクリニック認定施設でもあり，他に，当院にて集中治療，救急医療のローテーションも可能となっている。集中治療科は，クローズド・システムの内科・外科混合の ICU を管理し，24 時間 365 日シフト制で集中治療専門医の指導のもと診療にあたる。

・埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）

濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）

古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）

伊佐田　哲朗（麻酔・小児麻酔）

小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）

大橋　智　（麻酔・小児麻酔）

駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）

高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）

坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）

藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）

鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）

専門医：影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

麻酔科管理症例数:3908 例

認定病院番号：399

特徴：研修者の到達目標に応じて，小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術，心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり，総合周産期母子医療センター，小児救命救急センター，移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です（PICU14，HCU20，NICU30，GCU48）。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

5. 先攻医の採用と問い合わせ先

①採用方法

先攻医に応募する場合は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する。

②問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である。

東邦大学医療センター大森病院麻酔科　担当　岩本　津和

〒143-8541　東京都大田区大森西 6-11-1
TEL 03-3762-4151（代表）/03-3765-8022（医局）
e-mail masuikacc@hotmail.com
website https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/pv/anesth/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4 年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る。

②麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科先攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途**資料麻酔科先攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別な目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院に置いて卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指

導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

先攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

①　形成的評価

●研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

●専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

②　総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　専門研修の休止

●専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。

●出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる。

●妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

●2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

●専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

●専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

●専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての東邦大学医療センター大橋病院，東邦大学医療センター佐倉病院，済生会横浜市東部病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻

医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する。

さらに，子供の養育を含めた家庭内の事情，健康上の理由などにより労働に制限がある場合でも，適切に研修が継続できるように個々に研修計画を調整する。